

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年1月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694500010
法人名	医療法人 大進会
事業所名	重富の里
所在地	鹿児島県始良市平松5320番地 (電話) 0995-66-5477
自己評価作成日	平成29年12月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成29年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

重富の里は武家屋敷跡の風情が残る閑静な住宅街の中にあり、事業所の周りは四季折々の草花が咲き、のんびりと暮らすにはぴったりの環境となっています。

グループホームと小規模多機能ホームが併設しており、ご利用者・職員は自由に行き来ができており、年間行事なども一緒に行う機会も多く職員間の連携や協力関係を整えている。また、法人グループには病院や老健施設、認知症対応型デイサービスがあり、医療、福祉と連携を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は小規模多機能ホームが併設され、廊下で繋がっている。利用者、職員の往来も自由で、年間行事も一緒に行うことも多くある。職員との連携や災害時の協力関係も構築されている。
- ・近くには小学校があり、通学路に面しているため、登下校の際に小学生が立ち寄るなど日常的に交流している。
- ・管理者や職員は利用者との関わりを大切にし、その人らしい生活ができるように、希望に沿って外食や馴染みの場所への外出支援を行っている。
- ・自治会に加入し、回覧板等で地域の情報を共有している。当事業所が月2回開催する重富民族資料館での「歌声喫茶」は利用者と地域の人々の交流の場となっている。認知症の相談なども受け、認知症対策などの情報発信の場ともなっている。
- ・母体医療機関や老健施設・認知症対応型デイサービス・他のグループホームとの連携もあり、多くの人と交流している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「愛・夢・学」という法人で統一された理念があり、事業所内に掲げている。職員会議等で理念に振り返り、利用者本位の生活が送れるよう実践している。	法人の象徴的な理念があり、それに沿って、当ホーム独自の理念を作成し、ホールに掲示し、職員会議で振り返り確認して理念を共有し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は地域の自治会に所属しており、地域の行事や活動に参加している。また近くに小学校があり、バザーへの参加やマラソン大会の応援に行ったり、小学校行事の際は事業所の駐車場を開放したりしている。	自治会の回覧板にはホームの通信が毎月紹介されている。小学校の持久走大会の応援やバザーその他地域の行事で駐車場の提供やホームの避難訓練への協力を得たり、門松づくりを地域と一緒にやっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	毎年、同校区内の他の介護事業所や地域包括支援センターと共同で小学校にて認知症サポーター養成講座や徘徊模擬訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、事業所の取り組みや実践報告を行い、意見・助言を聞いている。会議の中から、地域の防災士による災害時の対応についての職員研修に結びついた。</p>	<p>会議は定期的に行われ、事業所の状況やヒヤリハット・外部評価の報告などを行い、意見や提案が出されている。地域状況が話し合われ、学校で授業の一環として、疑似徘徊訓練や認知症についての紹介を行っている。災害時の対応等についてもサービスに活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議のメンバーには介護保険系の職員、地域包括支援センターの職員も入っており、会議の中で事業所の取り組みなどを報告や相談を行っている。</p>	<p>市の担当者は運営推進会議に参加してもらったり、窓口で訪問したり、電話で連絡や相談をしている。市と合同で徘徊模擬訓練を行ったり、地域ネットワークで意見交換を行うなど協力関係を築くように取り組んでいる。市の協議会に出席し、市の研修会にも参加し、日常的に協力関係ができている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束は原則、行っていない。法人で身体拘束についての研修もあり、研修を受けた職員が職員会議内で職員へ報告を行い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠も夜間以外はしていない。</p>	<p>法人で身体拘束廃止についての研修に参加し、受けた研修内容を職員会議で報告と共に研修を行っている。言葉の拘束についても具体的に話し合っている。日中の玄関の施錠はしていない。外出希望者には、職員が連携し一緒に散歩する等、自由な暮らしの支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待はないと云える。言葉使いや対応に注意を払い、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>以前は後見制度を利用されている方もおらえ関わりを持つ事で学ぶ機会もあった。法人内の研修会などで理解できるように努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には管理者より重要事項に沿って説明を行い、ご家族の理解、同意の上、契約をしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置しているが、なかなか投書は見られない。普段からご家族との関わりの中から、気になる事や意見がないか伺っている。</p>	<p>利用者には日常の生活の中での会話から思いを推察している。家族からは面会時やバーベキュー大会・敬老会時に食事を一緒にしながら、気になることや思いを聞いている。看取りについて話し合いを行い、かかりつけ医も参加して実施した。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議やミーティング等において、職員の意見を管理者から代表者に報告し、職員の意見に耳を傾けてもらっている。	毎月の職員会議やケア会議で意見を聞いている。ケアについてや介護計画についての意見が出されたり、トイレの改修や車の購入も実施された。資格取得の補助もある。フラダンスを職員で練習する中でのアイデアが反映されることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の人事考課や職員会議等で職員の声に耳を傾け、管理者から代表者へ報告をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会や事業所内での勉強会等で専門性の向上に努め、外部研修やセミナーなどの参加を呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の事業所での交流やグループホーム連絡協議会にての意見交換会や交流会へ参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や情報提供により、知りえた情報をもとに、本人の声に耳を傾けながら、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時・入居時、家族の方の要望や不安な事について話し合いを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より、家族との話し合いの中で必要である物を準備してもらったり、必要によってはリハビリや訪問マッサージ等の情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の好きな事や出来る事を見つけ、それぞれの役割りや喜びを味わえるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>生活の様子を報告したり、要望等を聞いたり、良い関係を築けるよう努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族と一緒に外出や外食ができるように、話合いを持っている。家族や友人が面会に来た際はゆっくり過ごせるよう配慮を行っている。</p>	<p>家族や友人・知人の面会が多く、一緒にお茶を飲むなどして継続的關係が途切れないよう働きかけている。行きつけの理美容院への支援や手紙や電話の取次ぎなども行っている。家族との外出や外食などに出かけている。隣接する小規模多機能ホーム利用者との交流も日常的に行っている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>耳の遠い方などは職員が間に入り馴染みの関係が築けるように配慮している。 トラブルについてもお互いの人格を傷つけないよう介入している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院等により契約が終了となっても、また必要時には相談に応じたり、利用を始める事が出来る事を伝えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃からの利用者との関わり、コミュニケーションや家族からの情報などから本人の意向などの把握に努めている。	日々の生活の中で声をかけ言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。利用者の思いを家族とも相談し、本人の視点に立って支援している。調理を希望する利用者に、エプロンを付けて手伝ってもらったり、馴染みの店でフルーツパフェを食べるなど、本人中心に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族、情報提供書などからこれまでの生活暦などお聞きし、入居後もコミュニケーションの中で、昔の話を聞きながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のモニタリングを行い、職員全体で情報共有、検討を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケース会議を開催している。事前に担当者が本人・家族の意向を確認し、皆でケアのあり方を話し合いながらプランを作成している。	本人の希望は日常の話の中から把握し、家族の意見は面会時に聞き、担当者会議で話し合い、職員の意見と総合して介護計画を作成している。モニタリングは月1回、見直しは必要時または6ヶ月ごとに行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	利用者一人ひとりの日々記録を記入し、職員間での情報を共有している。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	グループホームの中の生活が主となっているが、個別のリハビリなど行っている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	小学校のバザーや地域の行事などに参加をしている。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	家族やかかりつけ医、協力医療機関との連携を図りながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	本人・家族の希望するかかりつけ医であり、それぞれ2週間に1回の往診がある。家族の立会いを行っている。受診は家族または職員が同行して情報は、家族と共有している。協力医療機関との常時緊急連絡受け入れ体制があり、小規模多機能の看護師や職員との医療連携もできている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日のバイタルチェックや一人ひとりの状態の把握を行っている。また、医療連携により定期的に訪問する病院看護師に健康管理の相談を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中は、主にソーシャルワーカーと連携を取り、状態の確認や退院に向けての調整などの情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時には重度化や終末期に伴う指針を説明している。状態が変化した際にも家族と確認。かかりつけ医のDrも事業所に来られて、家族と職員に話しをしてもらった事もあった。</p>	<p>指針を入所時に説明し同意を得ている。状態の変化に伴い段階的に説明し、確認しながら支援している。看取りの段階になった時に改めて医師より説明し必要な同意書をもらい、訪問看護や職員の体制・家族の協力・ドクターの指示とチームを組んで支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生時の対応マニュアルを作成し、急変時の対応に備えているが、救急時は戸惑いもあり、併設事業所の看護師にも支えてもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎年、5月と11月に避難訓練を実施しており地域の方も参加している。事業所の非常連絡網にも近所に住む地域の方も入っている。</p>	<p>年2回消防署の指導の下、昼・夜間に訓練している。民生委員や地域の住民も訓練に参加してもらっている。防災訓練士を招き、避難の仕方などを学んでいる。緊急連絡網に地域住民が登録してもらい協力体制が整っている。地域の防災訓練にも参加している。備蓄は米・水・インスタント食品・ガスコンロ等を準備している。防災帽子も今年度そろえる計画である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳のあるケアを大切に、利用者の対応に十分配慮を行っている。言葉かけなども職員間でお互いを注意し合っている。	マニュアルがあり職員会議やケア会議で話し合い、人格を傷つけることのないように配慮している。排泄時・入浴行為・入室の際にも十分に気を配っている。難聴の人の声かけにも工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の為、自分の思いをなかなか表わす事が困難な方もおられるが、行動や表情などから汲み取るようにしながら取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者それぞれの生活リズムに合わせ、起床や就寝も一人ひとりの状態に合わせて対応し、日中の過ごし方も希望に沿うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご利用者の好み等を尊重し、衣類を選んでもらったり、お化粧品をしたり支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理をする際に、一緒に下ごしらえをしたり、調理方法などを聞いたりしている。	献立は栄養士のアドバイスを受け、個々のベースに合わせた食事を提供している。誕生日は好みの物を提供したり、外出に出かけている。季節の行事食や弁当持参での花見・家族参加のバーベキューなど、食事が楽しみなものになるよう工夫している。梅干し作りや干し柿作りも職員と一緒に رفتったり、個々に応じて茶碗洗いや台ふき等も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合った食事の量にしたり、状態に合わせて、食事をきざんだり、トロミをつけた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に応じて口腔ケアを行い、異常時には歯科医への連絡・相談を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日の排泄チェック表の記入をしており、声かけや誘導にてトイレで排泄が出来るように支援している。	排泄チェック表でリズムを把握し、日中はトイレでの排泄や排泄の自立を支援している。夏はトイレの暑さ対策に扇風機を設置するなどの配慮がある。おむつからリハビリパンツになったり、ポータブルトイレで排泄できるようになった事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、水分補給や、必要な方へは下剤や座薬を使用し、排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の体調を観察しながら、行っており、入浴出来ない方へは身体を拭いたり、清拭対応をおこなっている。時期によって菖蒲湯やゆず湯など楽しんでもらっている。	入浴は基本的には週2回であるが本人の希望があれば毎日でも入浴可能である。機械浴もある。浴槽に十分に浸かれるので入浴を喜んでいる。拒否の利用者は時間調整など職員間で連携して、個々に応じた入浴の支援をしている。ゆず湯もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムやその日の状況を確認しながら対応している。休憩されたい時も本人の希望に沿って休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬はもちろんの事、変化のあった時は連絡帳や申し送りにて職員全員は把握するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ご利用者の趣味や嗜好を把握し、本人の得意な分野での役割りを持たせ気分転換に繋がるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>近くまで、散歩にいたり、時にはドライブや地域の行事等に出かけている。家族との外食や外出の機会を作るようにしている。</p>	<p>日常的に散歩をしたり、小規模多機能ホームに遊びに行ったりしてお茶を飲んでいる。ドライブや買い物・小学校の持久走大会や地域の行事等に出かけている。年間計画を立て、初詣や花見・こいのぼり見物・持久走大会の応援・案山子祭りの見物・家族との外出・外食・墓参り等、地域の人や家族との協力で出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が難しいと思われるご利用者は事業所にて管理をしている。自分で管理をしている方もおり、さりげなく見守っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご利用者の希望により、自由に出来るように支援している。携帯電話をお持ちのご利用者もいる。手紙については、なかなか書く事が難しい方には職員が代筆をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎日の清掃と、室温調整などに気を配り、快適に過ごせるよう努めている。ご利用者同士でトイレの使用が重なる事もある為、職員が他のトイレにすすめたり声かけを行っている。</p>	<p>明るいホールから景色が眺められる。トイレの数も多く使い勝手を考えてトイレ器具の改装も行われ使用しやすい。障子や天窓があり、穏やかな共用空間が広がっている。ホームの前は通学路で子供達を見送ったり迎えたりと和やかな交流もある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者間の関係を考慮してテーブルの座席を配慮したり環境作りを大切にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人やご家族の希望を考慮し、自分の使い慣れた物や馴染みの物を持って頂けるよう本人やご家族に説明を行っている。</p>	<p>居室はベッド・タンス・エアコン・鏡はホームで設置している。毛布や机・椅子・家具・テレビ・位牌・遺影・本・写真など、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレがわかりづらいとの声もあり、トイレ表示をわかりやすく設置した。お部屋内のベッド等はそれぞれの好みや状態に合わせた配置がしてある。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない